

<p>学校だより</p> 		<p>教育目標 やさしさ つよさ たくましさのある さくら小の子</p>
<p>令和7年 11月号 11月1日発行</p>	<p>大島町立さくら小学校 〒100-0102 大島町岡田字長坂 113 電話 04992-2-8021 フax 04992-2-8853 E-mail 02T000@izu-oshima.ed.jp</p>	<input type="button" value="大島町立さくら小学校"/> <input type="button" value="検索"/>

思い受け継ぎ、未来へ

校長 野澤 啓幸

「〇〇の秋」という表現があります。芸術、読書、スポーツ、食欲…。どれも秋にしかできないものではありませんが、四季の移ろいや風情を感じ、楽しむ日本らしい表現と言えるかもしれません。暑い夏から徐々に風や陽光が心地よく感じられることや、脳を働かせるのに最適と言われる目安の気温であること、晴れの確率の高い日に合わせてオリンピックという国際的な行事が開催されたことも背景にあるようです。

本校でも後述の合同運動会に続いて、2つの行事を行いました。

10月27日(月)には、運営委員会を中心に子供たちがアイデアを出し合い準備を進めてきた「20周年おめでとう集会&OMOIYARIコンサート」を行いました。子供たちの、思いがこもった作品、さくら小への愛と誇りに満ちあふれた元気で楽しい出し物や歌声、さまざまな形でさくら小に関わってくださっているご来場の皆様のあたたかい拍手によりすてきな時間を共有することができました。スペシャルゲストの藤田恵美さんも「難しい言葉ではなく、ひらがなでも伝わる分かりやすい言葉で、1~6年生のみんなが歌える」校歌作成時のお話や、「OMOIYARIのうた」に込めた願いを子供たちに伝えてくださいました。

11月1日(土)には各学級での道徳授業、体育館での全校道徳授業、パネルディスカッションという構成で「やさしくて すなおな人に なるために」という校歌の歌詞に関連させたテーマで道徳授業地区公開講座を行いました。

どちらも20周年をきっかけとして、校歌の歌詞に浸ることを通して、歌い継がれる開校当時の地域の思いや願いであり、本校の教育目標である「やさしさ つよさ たくましさ」について、あらためて考える良い機会となりました。

さくら小の新たな歴史を刻む子供たちが、それぞれの立場や状況で、自分なりの「やさしさ つよさ たくましさ」を体現していくよう引き続き、支援・指導し、価値付けてまいります。

11月の生活目標「思いやりの気持ちを大切にしよう」

～喜びをひろげる「やさしさ」の輪～

11月 生活目標担当 山本 京

11月は、「ふれあい月間」です。この月間を通して、全校児童で「思いやり」の心をさらに深く考えていきます。

本校の教育目標は、「やさしさ つよさ たくましさのあるさくら小の子」です。この中でも、特に「やさしさ」に重点を置き、これまで全校集会や道徳の授業などを通して、みんなで考える時間を作っていました。先日の「20周年おめでとう集会&OMOIYARIコンサート」でも、「思いやりってなんだろう。どうやったら、思いやりがふえるだろう。」と、藤田恵美さんから尋ねられ、子供たちは、頭を悩ませながらも、思いやりから連想される気持ちや行動を言葉にしていました。

私は、「思いやり」とは、相手がいてはじめて成り立つものだと思っています。



♥相手の気持ちに寄り添って行動する。

♥相手の立場になって考えてみる。

この小さな一歩から、たくさんの笑顔や「ありがとう」の感謝の気持ちが生まれます。そして、その喜びは、ひとりからふたりへ、ふたりからもっと多くの人へと広がっていくのではないでしょうか。今月は、思いやりの中でも、相手意識をもつことを心がけてほしい、と子供たちに伝えています。この「ふれあい月間」で、一人ひとりの温かい心が触れ合、思いやりの輪がさらに大きく広がっていくことを心から願っています。

合同運動会について

運動会担当 薊 優介

秋の気持ちのよい風とともに地域の皆様の温かい声援に包まれて、さくら小・二中の伝統ある合同運動会が開催されました。子供たちはこれまで練習で培ってきた力を思い切り發揮し、仲間と心を合わせて競技や応援に取り組みました。仲間と声をかけ合いながら全力で走り、踊り、応援する姿はとてもまぶしく、見守る私たちも胸が熱くなりました。また、保護者の皆様の拍手や応援が子供たちの大きな力となっていました。

前日の大雨で開催できるか等、ご心配をおかけしましたが皆様のご協力のお陰で無事開催できましたこと、感謝申し上げます。ありがとうございました。子供たちがこの経験を胸に、これからも力強く成長していくことを願っています。



応援コメントより *今年度より閉会式では紹介せず、後日紙面でお伝えすることになりました。

- ・大きな声が出ていました。一生懸命さがよく伝わってきました。二中生も入り一体となって応援することができました。たくさんの工夫が見られました。団長さん、担当の先生方お疲れ様でした。
- ・児童の声がよく出ていました。踊りもメリハリがありよかったです。団長さんがとてもよくがんばっていたと思います。
- ・よく声が出ていて、勝利に対する強い気持ちを感じました。低学年の子の一生懸命な様子に心を打たれました。
- ・動きが全体的にとても大きく勝利への意気込みを感じる表現でした。
- ・上級生から下級生まで一生懸命に声を出していく、非常に一体感のある応援だった。
- ・団長ののけぞりが印象的だった。声がよく出て、響いていた。

*コメントを書いてくださった地域・来賓の皆様、ありがとうございました。

Give me five!!～町レクを終えて～

体育レクリエーション担当 伊藤 貴之

題名の“Give me five”そのまま訳してしまうと「5を与える」という意味でわかりづらいですが、これは「ハイタッチをする」という意味があるそうです。

会場であるつばき小学校の校庭ではこの“Give me five”がたくさんの場面で見られたのです。400mリレーを走り終わった後、チームメイトとの“Give me five”。100m走を走り終えて、応援席に戻ってきたとき、補欠のメンバーとの“Give me five”。この“Give me five”は同じユニホームを着た仲間たちとのもの。しかし、会場ではそれ以外の“Give me five”も見られたのです。走り高跳びの時には、同じバーの高さを飛びこえることができたつばき小の子やつづじ小の子たちと共に喜び合う“Give me five”。走り幅跳びでは、全員が飛び終えたあとにお互いを称え合う“Give me five”。観ているこちらが心を動かされる瞬間がたくさんありました。本当に本当にすてきな空間でした。

当日、グランドを整備してくださった町の方々、選手の体調管理をしてくださった保護者の皆様、大島町レクリエーション大会に携わるすべての方々への感謝を込めて。ありがとうございました。



お知らせ

11月1日よりSSS（スクールサポートスタッフとして、森本詩織さんが勤務してくださいます。

行事予定はホームページで公開しています →

(事務室前に、行事予定を印刷したものを用意しています。必要な方は、ご自由にお取りください。)

